

■ラジオ沖縄 平成30年度 第1回番組審議委員会議事録

◇開催日時:平成30年4月19日(木) 15:00~

◇開催場所:株式会社ラジオ沖縄3階スタジオ

◇委員総数:7名 出席委員:4名

◇出席委員:委員長/新城和博 副委員長/米倉外昭 委員/新城亘、長勝也

◇放送事業者側出席者:制作報道部・番組審議室 報道部部长兼番組審議委員会事務局長 小磯誠
制作報道部番組審議委員会/小橋川響

◇審議議題 「OBP☆ただいま進化中!!」聴取合評

◇議事の概要 毎週水曜日午後10:00~10:20放送の番組「OBP☆ただいま進化中!!」の平成30年2月21日放送回を聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

みんなの力を合わせれば、もっともっと進化できる!という思いから生まれた“進化系集団”「OBPオキナワ美少女プロジェクト」の“今”をお届けしています。

【まとめ】

- ・小学生から20代まで様々な女の子の声やトークに年齢による違いがあり、声に立体感を感じる。
- ・メンバーの年齢の違いが会話にも出ていて面白い。メンバーそれぞれの成長を感じていける要素が番組の中にあれば良い。
- ・番組タイトルに「進化中」とあるように、メンバーの成長・進化が見えてくると番組として面白くなってくだろう。
- ・小学生から高校生、20代前半などメンバーの年齢層が広い。若い世代は関心や共感を持って聞けるだろうし、上の世代は若い世代の興味や関心を知ることができる番組だと思う。
- ・同世代として彼女たちを見る層と、年が上の「アイドルおたく」といわれる層があると思う。そうしたなかで、年上の世代がラジオに戻るという意味と若い世代がラジオに戻るという意味との二重の効果があると思う。
- ・メンバーのトークはその場その場の流れで生まれているが、最初に核となるテーマを設けてから語れば、トークも引き締まったものとなると思う。
- ・五・七・五のコーナーはリスナーからのメッセージを募るコーナーなので、もっと紹介した方が良いのではないか。
- ・こういう番組が支持されるには時間がかかると思う。“日常系”といわれるような、番組にメッセージ性が少ないようなタイプの番組でも、なじんでいけばよく聞かれるようになるだろう。

■ラジオ沖縄 平成30年度 第2回番組審議委員会議事録

◇開催日時:平成30年5月17日(木) 15:00~

◇開催場所:株式会社ラジオ沖縄3階スタジオ

◇委員総数:7名 出席委員:4名

◇出席委員:委員長/新城和博 副委員長/米倉外昭 委員/新城亘、島田勝也

◇放送事業者側出席者:制作報道部・番組審議室 報道部部长兼番組審議委員会事務局長 小磯誠
制作報道部番組審議委員会/小橋川響

◇審議議題 「ありのままでイーノ!」聴取合評

◇議事の概要 毎週月曜日午後9:00~10:00放送の番組「ありのままでイーノ!」の平成30年5月14日放送回を聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

仕事を終え、家事を終え、ホッと一息つける夜9時。悩む暇もないくらい忙しい女性、ママたちの愚痴・悩み・日常の出来事など、気軽に言い合える「ありのまま」でいられる場所、というのが番組コンセプト。

仕事に、家事に、毎日頑張る女性がホッと一息つく時間をお届けします。

リスナー全国在住地図をスタジオに貼っている。現在、北は北海道から南は石垣島まで15都道府県制覇!

【まとめ】

- ・自由な空間でしゃべっていると感じる。二人の掛け合いも良い。何かを得たり、そうでなかったりということとは別に楽しめている。ラジオ空間というのは、これくらい自由でいいと思う。さらに深い時間帯に挑戦してみてもいい。
- ・終始漫才のようだった。ホッと一息というよりも元気が出る番組だと感じた。
- ・リスナーのペンネームや地域名が入っていることで、色々な地域で聞いていることや、地域性が分かって想像が膨らむ。
- ・(パーソナリティーの一人の)愛さんはベテランなので、ディープで深刻な話題でも前向きな明るさを持って話を進められる信頼感がある。
- ・愛さんと魅川さんがミックスして、どんな価値が生まれるかということに挑戦し続けている番組。
- ・パーソナリティーの自己紹介がないので、魅川さんという方の正体が分からないまま番組が進んでしまったのは残念。
- ・ママたちの愚痴や悩みなど、日常の部分からは少し離れた内容だったかな、と感じた。

■ラジオ沖縄 平成30年度 第3回番組審議委員会議事録

◇開催日時:平成30年6月21日(木) 15:00~

◇開催場所:株式会社ラジオ沖縄3階スタジオ

◇委員総数:7名 出席委員:4名

◇出席委員:委員長/新城和博 副委員長/米倉外昭 委員/新城亘、島田勝也

◇放送事業者側出席者:制作報道部・番組審議室 報道部部长兼番組審議委員会事務局長 小磯誠
制作報道部番組審議委員会/小橋川響

◇審議議題 「今、子供たちに伝えたいしまくとぅば ~言葉に平和への思いを乗せて~」聴取合評

◇議事の概要 2018年5月31日(木)午後11:30~12:00放送の特別番組「今、子供たちに伝えたいしまくとぅば ~言葉に平和への思いを乗せて~」を聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

近年、沖縄では若者の方言離れが進んでいます。そんな中、ある高校では沖縄特有のしまくとぅば(方言)を学ぶ授業を積極的に取り入れています。

しまくとぅばの特別授業で教壇に立つのは普段から県内の子供たちに方言を教える活動を行っている宮城葉子さん(ラジオ沖縄方言ニュース火曜日担当)。宮城さんがしまくとぅばを教える時、必ず最初に子供たちに伝えていることがあります。

「沖縄には戦争で心に傷を負った人たちが大勢いる。戦争で何かを失った負の記憶が強く焼き付いている。だからこそ、言葉や文化を残したいとの思いも強い」

「方言札によって、しまくとぅばが次第に使われなくなったという沖縄独特の歴史もある。“平和”や“自由”。しまくとぅばに込められた思いと共に、方言を学び受け継いでほしい」

沖縄戦体験者の高齢化が進み、若者の方言離れが進む中、しまくとぅばを学ぶことが、今どのように意味を持つのか。教育現場での取り組みから追います。

【まとめ】

- ・戦争体験やしまくとぅばの継承などは、ずっと言われ続けている沖縄全体のテーマ。
- ・高校生たちが「しまくとぅばを使うことの影響」に驚いていたが、そこをもっと掘り下げるなど、番組独特のテーマが欲しかった。
- ・「言葉」「平和」「若者」という3つの方向性があった。どれか1つを深く掘り下げてみても良かったと思う。
- ・現代を生きる高校生たちが方言を学ぶこと、それがどう生きていくのか。将来どのように役立つのかの展望に言及していくといいと思う。
- ・良いテーマに取り組んでいる。言葉の継承問題。6月(慰霊の日)をイメージした番組となっている。
- ・沖縄本島と離島では戦争に関する歴史も違う。そういう部分にも触れられると良い。
- ・番組制作者が「沖縄を知る・沖縄の心を知る」ということをどう理解しているのか、聞いてみたかった。
- ・高齢者から若者への大切なメッセージが大和言葉というのが残念。こここそ方言で聞きたかった。

■ラジオ沖縄 平成30年度 第4回番組審議委員会議事録

◇開催日時:平成30年7月19日(木) 15:00~

◇開催場所:株式会社ラジオ沖縄3階スタジオ

◇委員総数:7名 出席委員:4名

◇出席委員:委員長/新城和博 副委員長/米倉外昭 委員/新城亘、島田勝也

◇放送事業者側出席者:制作報道部・番組審議室 報道部部長兼番組審議委員会事務局長 小磯誠
制作報道部番組審議委員会/小橋川響

◇審議議題 「私宅監置・沖縄 ~扉がひらくとき~」聴取合評

◇議事の概要 2018年5月28日(月)午後10:30~11:30放送の特別番組「私宅監置・沖縄 ~扉がひらくとき~」を聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

自宅敷地内の小屋などに精神障がい者を閉じ込める私宅監置は、1900年の「精神病者監護法」で国の認可のもとに行われた。戦後、本土では禁止されるが、沖縄では本土より22年も長く続いた。精神医療の遅れ、米軍統治、貧困など、沖縄独特の背景が招いた悲劇だった。

沖縄での精神障がいの発症は多かったのか、原因は何なのか。そこには戦争の影響が否定できない。おだやかな県民性さえも関係する。

名護市の保健所職員、波照間島の当時の国民学校生らは、私宅監置の状況を生々しく証言する。

13年監置されていた男性は去年亡くなった。12年監置された82歳の女性が残した詩には…。

私宅監置の闇を知る人が少なくなるなか、今年4月、沖縄県精神保健福祉社会連合会は那覇市で私宅監置の展示会を開催した。そのシンポジウムでは、精神障がい者とその家族が、壮絶な体験を語る。そして、その一人は最後にある決意を口にする。

闇を光に変えるために。二度と繰り返さないために。これからできることはなんなのか。

…私宅監置の本当の扉は、どこにあるのか。

【まとめ】

- ・非常に迫力のある番組。このテーマ広く県民に社会に知ってもらうことの意義は大きく、聴きごたえがある。
- ・ラジオならではの伝え方。カラスの鳴き声など音を効果的に使っており、やんばるという場所を明確に感じる。監置小屋に入ってみた感想なども生々しい。
- ・生々しい証言をよくぞ掘り起こした。因果関係を丁寧に説明しており、番組もきちんとまとめられていると感じる。
- ・原稿量が多く、しっかりと聞かせる内容であり、製作者の伝えたいという思いが伝わってきた。
- ・インタビューを受けてくれる方々も確保し、しっかり語って頂いている。制作の裏側の苦労が想像できる。
- ・日本本土と沖縄の精神医療のバックボーン知って聞くと、また違うことを感じるだろう。聞き手の知識量によっても感じるが変わる番組。
- ・同分野の政策当局に対しても再考・理解を深めてもらう機会になるのではないかと思う
- ・私宅監置にあたるような悲惨なニュースが全国各地でも起きており、この時期の特別番組は適時と感じる。
- ・深刻化している格差社会とも結びつく問題。我々の社会を考える上で中々表面にでないが重要な問題を提起したという意味で評価すべき番組。
- ・私宅監置という問題が分かった上でどうするのか、どうした方がいいのかという提言もあるとなお良かった。

■ラジオ沖縄 平成30年度 第5回番組審議委員会議事録

◇開催日時:平成30年9月20日(木) 15:00~

◇開催場所:株式会社ラジオ沖縄3階スタジオ

◇委員総数:7名 出席委員:4名

◇出席委員:委員長/新城和博 副委員長/米倉外昭 委員/長勝也、島田勝也

◇放送事業者側出席者:制作報道部・番組審議室 報道部部長兼番組審議委員会事務局長 小磯誠
制作報道部番組審議委員会/小橋川響

◇審議議題 「チャレンジラジオ ~国際通りを旅する~」聴取合評

◇議事の概要 2018年8月11日(土)午後9:00~9:30放送の「チャレンジラジオ ~国際通りを旅する~」を聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

那覇市の「国際通り」にスポットをあて、再開発で変わりゆく国際通りの今昔を、国際委通りにゆかりのある2人が街歩きしながら巡ります。

「奇跡の1マイル」とよばれる、沖縄観光の入り口ともいえる国際通り。今となってお土産店や沖縄料理屋が立ち並び観光客が楽しんでいます、その昔は地域の生活を支える場所でもありました。

沖縄の復帰から46年。あの頃のあの場所はどのように変化したのか? 国際通りを散歩しながら、出演者2人の思い出の場所を巡ります。

【まとめ】

- ・斬新な番組。ラジオ版「ブラタモリ」とも言えようか。ローカルでラジオという特質が活かされている。
- ・出演者2人の語らいとナレーションの説明がテンポもよかった。2人の国際通りへの思いがひしひしと伝わってくる。BGMも雰囲気があった。
- ・国際通りをテーマにするという着眼点がいい。(出演者の)新城さんの語り口も軽妙で、まさに放浪記という内容で楽しい。
- ・生活の一部の場所を掘り下げて再認識できる知識欲や知的好奇心をゆさぶる良い内容。
- ・文化の発信地というイメージの在った国際通りが、現在ではお土産屋さんであふれている。これが沖縄の移り変わりを体現していると感じた。
- ・今回の2人だけでなく年代や世代の違う人選で国際通りのイメージを話してもらうと、掘り下げとして面白くなるのではないか。
- ・街の音をもっと入れると更に良い番組になると思う。
- ・「国際通りを旅する」となっているが、もう少し広い範囲だったような気がする。あるいはガープ川水上店舗がテーマだったようにも思う。
- ・当時のヒット曲や町で出合った人の言葉や音など、ラジオらしい表現がもっとあってもいいのではないか。30分番組ではもったいない感じ。
- ・「映画館だけ」「服屋だけ」などと店をしぼって国際通りを取り扱った番組にしても面白いと思う。
- ・国際通り以外にもコザや本部町など「街」があった別の場所で番組を作ってみても面白くなると思う。昔栄えた場所の物語を追ってみてはどうか。
- ・「〇〇さんと歩く〇〇」というシリーズで、街の記憶をたどるという企画も面白いのではないか。ラジオならではの遊びとか表現がいろいろありそうだ。

■ラジオ沖縄 平成30年度 第6回番組審議委員会議事録

◇開催日時:平成30年10月18日(木) 15:00~

◇開催場所:株式会社ラジオ沖縄3階スタジオ

◇委員総数:7名 出席委員:5名

◇出席委員:委員長/新城和博 副委員長/米倉外昭 委員/長勝也、島田勝也、新城亘

◇放送事業者側出席者:制作報道部・番組審議室 報道部部长兼番組審議委員会事務局長 小磯誠
制作報道部番組審議委員会/小橋川響

◇審議議題 「Sweet & Bitter」聴取合評

◇議事の概要 毎週木曜日午後6:30~7:00放送の「Sweet & Bitter」を聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

東京在住のナレーター・岩井証夫と沖縄在住の声優・矢島晶子が週替わりで担当。

1週目は岩井証夫が担当。東京での生活で見たこと、感じたことを祝い琉ん語ります。

2週目~4週目は矢島晶子が担当。趣味である「旅」の話を中心に語ります。声優としてキャラクターに命を吹き込んでいる彼女とは違う一面が覗ける特別な空間。

声のスペシャリストごそれぞれのテイストでお届けする贅沢な30分。

【まとめ】

- ・声がさすがとしか言いようがないほどに素晴らしい。心地よい声と選曲で、放送が帰宅途中の時間帯と考えるとリスナーもゆったりと聞くことができる番組。
- ・沖縄の人にとって「旅」とは何かと考えることになった。
- ・外からの眼差しで沖縄の人が自身の足元を見つめ直すいい機会を与えてくれる番組となるのではないか。
- ・沖縄の人にとっても地元を再発見できる番組だが、本土の人にも聞いてほしい。
- ・トークと曲が一体となったコンテンツすごい。伝わる力、伝える力のある番組。
- ・地元の良さというのは住んでいる人には分かりづらく、外から来た人によって再発見されることが多い。沖縄の人が持ちえない感覚で教えられて初めて分かることがたくさんある。場所や食など、様々な部分で再発見があるはず。それを教えてくれる番組となりそうだ。
- ・地元の人が当たり前知っている有名スポットではなく、矢島さんが発見した何気ない風景の中の着目ポイントを発信することが興味深いし、番組として意義がある。
- ・必ずしも沖縄にこだわらず、「旅」にフォーカスして色々な話をしてもいいと思う。
- ・矢島さんは声優さんなので、アニメファンに向けた情報も入れつつ沖縄に特化した別の話を入れるということもやってみてはどうだろうか。

■ラジオ沖縄 平成30年度 第7回番組審議委員会議事録

◇開催日時:平成30年11月15日(木) 15:00~

◇開催場所:株式会社ラジオ沖縄3階スタジオ

◇委員総数:7名 出席委員:4名

◇出席委員:委員長/新城和博 副委員長/米倉外昭 委員/長勝也、新城亘

◇放送事業者側出席者:制作報道部・番組審議室 報道部部長兼番組審議委員会事務局長 小磯誠
制作報道部番組審議委員会/小橋川響

◇審議議題 「金秀グループプレゼンツ VOICE TWO VOICE」聴取合評

◇議事の概要 毎週月曜日~金曜日午前9:05~9:10放送の「金秀グループプレゼンツ VOICE TWO VOICE」を聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

リスナーの日常にちょっとしたエッセンスをプラスする5分番組。

イギリス人の父と日本人の母を持つ沖縄在住のクラシックギタリスト、ノエル・ビリングスキーと、国立劇場おきなわの芸術監督である嘉数道彦の二人が、それぞれの育った環境や活動ジャンルの違いを超えたトークを繰り広げます。

月・水・金曜日はノエルさん、火・木曜日は嘉数さんがパーソナリティを務めます。

番組のBGMはノエルさんの演奏。

【まとめ】

- ・朝のちょうど忙しい時間帯に5分という短い時間だけ安心して聴ける番組。短さが良い。
- ・一冊の本にするほどではないけれども他人に伝えたい小話というものもある。この5分はそういう、随筆・エッセイ的面白さがある。
- ・二人のバックグラウンドが全然違う。リスナーも魅力的に感じると思う。
- ・ノエルさんは落ち着いたゆっくりとしたトーク。嘉数さんははっきりと元気よくと対照的。
- ・伝統芸能について話をしている回があった。関係者がこういう番組で話をする事で、伝統芸能に触れる前に「なじませる」ことができる。時間をかけて、伝統芸能に触れる下地作りができるだろう。
- ・短い時間に奥の深い、ハッとするような話をされている。知らない人に興味を抱かせる話し方で、上手い。
- ・リラックスでき、上品な気持ちになれる番組。

■ラジオ沖縄 平成30年度 第8回番組審議委員会議事録

◇開催日時:平成31年1月17日(木) 15:00~

◇開催場所:株式会社ラジオ沖縄3階スタジオ

◇委員総数:7名 出席委員:4名

◇出席委員:委員長/新城和博 副委員長/米倉外昭 委員/島田勝也、新城亘

◇放送事業者側出席者:制作報道部・番組審議室 報道部部長兼番組審議委員会事務局長 小磯誠
制作報道部番組審議委員会/小橋川響

◇審議議題 「ピースビルダー ~垣根をこえて~」聴取合評

◇議事の概要 2018年12月8日(土) 21:00~21:30放送の「ピースビルダー ~垣根をこえて~」を聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

77年前の12月8日日本軍は、ハワイの真珠湾(パールハーバー)を奇襲攻撃し、日本とアメリカは激しい戦争に突入しました。

そんな激しい戦闘が始まるきっかけとなった地・ハワイで、平和の大切さを伝える活動をしている女性があります。広島出身で被爆2世のピーターソンひろみさん(70歳)です。

2014年までハワイのプナホウ学園で日本語教師として勤務し、独自の教科書を作成して、子ども達に平和の尊さを伝え続けてきました。

番組では、「ピースビルダー=平和を築く人」を育てることを使命に活動を続けるピーターソンさんに焦点を当てながら、沖縄出身の若きピースビルダーの活動を紹介します。

【まとめ】

- ・ラジオでこういう硬派な番組を作るのはすごい。「ハワイの視点」「ピースビルダー」「実践」という部分から、日本の加害者性を浮き上がらせている。
- ・沖縄の視点と合わせて考えられているし、普遍性のあるテーマ。
- ・このような活動をしている方がいるということを知らなかったのが驚いた。「知る」ということが大事だということを感じる番組。
- ・情報リテラシーやフェイクニュースという言葉が多用される時代で、新しい情報を発掘してリスナーに届けることが大切で、こういう放送がされることは大いに意味がある。
- ・番組の構成も聞きやすく、メッセージも届きやすい。スッと入ってくる内容だった。
- ・インタビューは聞き応えがあり、やはり本人が語ることによって考え方、行動が実感できるのは、ラジオドキュメンタリーならではのと思う。言葉が響く。
- ・独自の教科書作りの話から、沖縄の若者の思いへとつなげていくのがよかった。次世代が平和について、国際的な枠組みでとらえていることはとても心強く感じた。
- ・いい音素材を集めているが、構成にはもう一工夫欲しい。前半に沖縄での活動で、後半でハワイでの「被害者視点だけではいけない」という流れでもよい。「互いの歴史を尊重する」という大テーマに持っていくには、その方がいいかもしれない。
- ・隠れた主題は「加害者と被害者を超えて」というところで、日本側には加害者でもあったという視点が抜けている、もしくは弱いというところを突きつける番組となっている。

■ラジオ沖縄 平成30年度 第9回番組審議委員会議事録

◇開催日時:平成31年2月21日(木) 15:00~

◇開催場所:株式会社ラジオ沖縄3階スタジオ

◇委員総数:7名 出席委員:4名

◇出席委員:委員長/新城和博 副委員長/米倉外昭 委員/島田勝也、友利郁子

◇放送事業者側出席者:制作報道部・番組審議室 報道部部长兼番組審議委員会事務局長 小磯誠
制作報道部番組審議委員会/小橋川響

◇審議議題 「ラジオ沖縄年末特別番組 IMUGE~ふるさとの味~」聴取合評

◇議事の概要 2018年12月30日(日) 15:00~15:30放送の「ラジオ沖縄年末特別番組
IMUGE~ふるさとの味~」を聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

歴史をさかのぼると琉球・沖縄には、泡盛の他にも様々なお酒がありました。サトウキビの搾り汁を使った「うーじ酒」、冊封使に献上したミーリンチュウなど、中国や東南アジアなど外国との交易があった琉球・沖縄特有の様々なお酒が存在していたのです。そうしたなか、特に庶民に親しまれていたのが、芋酒(イムゲー)でした。手に入りやすい芋と黒糖を材料に、各家庭で手軽に作ることができたため、市民権を得ていたイムゲーですが、酒税法の導入などもあり次第に姿を消していきました。

幻の酒となっていたイムゲーですが、2018年10月、離島の泡盛メーカーと県工業技術センターが力を結集し、およそ100年ぶりに復元されました。泡盛でも焼酎でもない、第2の地酒として光が当たる「IMUGE」復活プロジェクトに迫ります。

【まとめ】

- ・注目されるお酒で話題としては面白い。幻の酒復活のドラマを展開しようという所は興味深い。
- ・酒造メーカーの若い代表らの声や冒頭のつかみの音も良い。
- ・過疎の進離島を活性化したいという社長らの思いが伝わる。新しいお酒に期待したいと思わせる番組。
- ・泡盛業界が頑張っている中で、新たな取り組みはリスナーの耳を引く。内容を面白く展開できれば、聞きごたえのある番組になると思う。
- ・番組全体で酒造会社の社長3人がずっと喋っているので、それを長々と聞くのはつらい。もう少し聞かせる工夫、アイデアがあってもいい。少し真面目すぎる。
- ・座談会は社長らの声だけでなく、芋農家や商工会の関係者などの第三者も交えて商品化までの苦労やイムゲーへの期待を語ってもらうなどすれば、より良いものになったと思う。
- ・話の中心をどこに据えているのかわかりづらく、構成のバランスが取れていないと感じる。現代に繋がる部分やウチナー的という所を表現し、商品の価値や魅力に繋げてほしかった。
- ・放送が年末の昼の時間帯だが、誰に聞かせたかったのかが分からなかった。

■ラジオ沖縄 平成30年度 第10回番組審議委員会議事録

◇開催日時:平成31年3月14日(木) 15:00~

◇開催場所:株式会社ラジオ沖縄3階スタジオ

◇委員総数:7名 出席委員:7名

◇出席委員:委員長/新城和博 副委員長/米倉外昭 委員/新城亘、島田勝也、長勝也、中村聡、友利郁子

◇放送事業者側出席者:制作報道部・番組審議室 報道部部長兼番組審議委員会事務局長 小磯誠
制作報道部番組審議委員会/小橋川響

◇審議議題 「チャレンジラジオ ~だいちゃんよしくんの外ラジ~」聴取合評

◇議事の概要 2019年1月26日(日)21:00~21:30放送の「チャレンジラジオ ~だいちゃんよしくんの外ラジ~」を聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

FECオフィス所属のお笑い芸人・わさびの2人によるラジオ沖縄を持ちネタにしたコント「外ラジ」。

ラジオ沖縄で実際に放送された音源を交えつつ、コント「外ラジ」をラジオで完全再現する。

【まとめ】

- ・ラジオ局全体をパロディにするのは面白い。ラジオ沖縄の番組音源を使いつつ、それらを荒らしていく構成も面白い。音源を使った番組と関連ある番組を次に持ってくるとか、紐付けて音を繋げていくと番組に立体感が出るだろう。
- ・ラジオ放送そのものをネタにするのはマーケティング的にも有効。リスナーに訴える、引っ掛かりを作る手法としても一石三鳥くらいある良い手法。過去の番組コンテンツ循環型のやり方として時々こういう番組をやると楽しく聞ける。
- ・一つの番組の見方を多角的にできる番組。ブラッシュアップすれば、本当にいい番組になると思う。
- ・リスナーをパロディにするぎりぎりのネタは良い。思い当たりドキリとするリスナーもいるはず。
- ・アイデアと最初の掴みはいい。だがコント形式なので30分間も聞くのは厳しいのではと感じた。
- ・ラジオ沖縄のパーソナリティの名前を出しているが、普段から聞いていない人はついていきづらい。初めて聞いた人にも分かるような補足説明がほしい。
- ・芸人2人のトークが早くて、ついていけなかった。年齢が高い年代では聴取が厳しい番組だと思う。